

## 第一回 鹿児島県理学療法士連盟研修会開催

令和3年7月29日オンライン形式で「介護保険改正後の臨床現場の現状と課題」というテーマで研修会を開催しました。3名のシンポジストをお招きして25名の参加者と共に有意義な時間を過ごすことが出来ました。当日の様子を企画局 小野がまとめましたので紹介します。

千年メディカルタウン運営サブマネージャー勝山誠先生より、訪問リハビリの単位変更点、認知症利用者の事例報告をして頂きました。リハビリ介入への拒否が強く関わりに難渋する利用者に対し、ユマニチュードを導入、実践したことでBPSDが軽減、介入が以前に比べ容易になった事例を紹介して頂きました。介護職や看護職などに適切にリハとしての関わりや介護、介助方法などその人に合わせて内容の伝達や社会参加を促しなど多職種と連携をとりながら実践していく必要性をお話くださいました。

株式会社和月統括マネージャー白浜幸高先生より、訪問看護ステーションの現状と課題についてお話頂き、奄美で活動されている先生だからこそ感じる課題、そして取り組みをご紹介頂きました。その中で「要支援者へのサービス提供の問題点」として、奄美ではサービス資源が限られており、通院も困難、40分利用ではサービス面でも経営面でも提供困難な状況があるそうです。その中で取り組んでいることとして介護予防・日常生活支援総合事業による訪問C型事業への取り組みをご紹介頂きました。宇検村や大和村の人口2千人規模の村や龍郷町4千人規模という地域と契約をし、訪問C型事業、短期集中型で理学療法士や作業療法士を派遣して60分で3ヶ月とかで実施しながら、訪問C型事業に取り組んでいらっしゃるそうです。今後も僻地の要支援者への取り組みということをやっていきたくと力強くお話されていました。

アンダンテ伊集院 施設運営部副施設長宮先生より老健の現状、通所リハについて、それぞれの講演をいただきました。その中でLIFEについて触れて頂きました。リハビリテーションのこのデータの収集をするシステムをVISIT、高齢者のケアの状態や内容のデータ収集をするシステムをCHASEといい、リハビリを科学すると介護を科学することを合わせてLIFE。合計30項目程で構成されています。医療はエビデンスがしっかりしている、介護は経験や勘ですることが多くあった現状から迷った時に頼るものがない状況でした。そこでビッグデータを集めて科学的に裏付けた介護をするという目的から始まっています。実際、6万件くらいの事業所が登録がありますが、全国24万件ほどLIFEに登録できる施設はあるそうですが、4分の1程度の提出状況。一番の問題は、システムの問題。ICT化が進んでいますが、やはり設備投資に金銭がかかり実施したくても出来ない現状があるそうです。また情報入力も、リハに負担としてのしかかっている現状であると指摘されました。

それぞれの分野の改正の内容や実際の現場での課題、現状を知ることが出来ました。今回の意見交換は、通所リハビリ、訪問リハビリのリハマネ加算、リハ会議に関して中心となり、参加者の施設の現状や課題からも活発な意見交換ができたと思います。



活動紹介  
かごんま造士館出身者から

自由民主党は国・地方の将来を担う有益な人材育成を目的として、各都道府県連に「地方政治学校」を設置しています。鹿児島県では「かごんま造士館」として活動しています。連盟から3名が参加させて頂いています。どのような想いで学ばれたのでしょうか。

私は、かごんま造士館の第7期を卒業しました。次世代のリーダー育成を目的に「鹿児島から日本を造る」を掲げ、歴史、教育、外交、防衛、産業、防災、環境、地域活性化、医療・福祉、情報通信に関するテーマから、講義や現地視察を行いました。

造士館に参加し、現役の県議や市議の方々や様々な分野から参加する塾生と出会い、講義を通して交流できたことは、非常に貴重な経験となりました。社会における問題や課題に触れ、一緒に郷土の発展を考えることができる仲間ができたこと、広い視野で客観的に物事を捉えることの重要性を学ぶことが出来たことは、これからの自分の連盟活動に生かせると思います。今後、青年局での活動を通して、鹿児島県理学療法士連盟の発展の力になれるよう、研鑽していきたいです。

介護老人保健施設ラ・フォンテいずみ リハビリテーション部長 福永裕樹

かごんま造士館とは、「次世代のリーダーを鹿児島から！未来を造る仲間になろう」を合言葉として異業種の若者が集まり、日本を取り巻く国際社会や国内環境の課題に対して10回/年の研修・体験を通して切磋琢磨しながら研鑽する場です。年間を通じて異業種の方と接したり同世代のリーダーからのメッセージをいただくことで、社会の仕組みや様々な情勢に興味を持つことができました。自分のフィールドであるリハビリテーションに立ち返った時、異業種の方々と関わったことで違った視点で物事を考える幅が生まれ、目先の事だけではなく将来に向けた奥行きのある考えができると思います。視野を広げたいと思っている方はお奨めです。是非、参加してみてください。

医療法人 きりしま内科リハビリクリニック 事務・総務・リハビリテーション室 湯地 英充

私は平成31年度入塾にあたり、毎月の講義「教育」「医療福祉」「国家戦略」「未来創生」など様々なテーマの講義・外部研修を聴講し、一個人として何かできるか考えさせられ、農林水産、経済力などについて正直、深く考えたことがありませんでしたが、少しずつ興味を持ち、関わりをもつことが重要であると感じたと同時に新たな発見や私自身が考えている方向性に大いにヒントになりえることばかりでした。

私はリハ職種の養成校で教員をしており、今現在では造士館での経験を活かし、地域リハビリテーション事業（高齢者保健事業と介護予防の一体的実施）を霧島市（行政）とリハビリテーション職種や他職種の方々と連携を図りながら、「サロン活動」「居宅・施設訪問」など様々な事業を展開しております。ここで学んだことが大いに役に立っている事を認識しています。

鹿児島第一医療リハビリ専門学校 理学療法学科 神田勝利

7月17日に衆議院議員みやじ拓馬氏との意見交換会をZoomを使って開催いたしました。当初は19時から2時間の予定でしたが、気づけば2時前。みやじ拓馬氏には大いに語って頂きました。本連盟青年局長 岩森が当日の内容をまとめましたので、ご一読頂きますと幸いです。また、この広報紙発行後、お盆過ぎまでyoutubeで当日の様様を限定配信する準備を行っております。ホームページに詳細は掲載しますので、ご覧ください。

今回は理学療法士だけでなく、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、介護福祉士など多職種からの参加もいただき30名近い参加者が集まりました。まずは現在、みやじ議員が力を入れている活動についてお話をいただきました。

1つめは「難聴対策」について。

みやじ議員は、難聴対策推進議員連盟のメンバーであり、その中でも主となる存在です。先天性、後天性、加齢性などの様々なライフステージ起こりうる難聴に対するお話は、普段から対象者の生活のしづらさを解消するために、日々、リハビリを行なっている私たちにとって、非常に参考になるお話を伺うことができました。

2つめは「FemTech」について。(Female:女性、Technology:テクノロジー)

今、非常に世界的にも関心が高まっています。フェムテックとは、女性の痛みや生きづらさに対してテクノロジーで解決できる製品やサービスのことを言います。海外では様々な製品が開発されており、女性が抱える健康の課題に対応していることや、この問題は女性だけで解決すべき課題ではないということなど、言葉の定義から、先進国と我が国の現状、経済的な側面まで理解を深めることができました。

3つめは「医療的ケア児支援法」について。

みやじ議員も参加している超党派の国会議員らでつくる連盟は、医療的ケア児支援法の成立を実現しました。医療的ケア児支援法は、喀痰吸引や人工呼吸器といったケアを日常的に必要とする子供と、その家族への支援を充実させる法律です。今まで医療的ケアという支援のニーズに対して社会の認識が不足していたことや、医療的ケア児が保育や療育を受けられず、家族は24時間365日ケアを行うことで就労どころかレスパイトもできていなかったことなど、介護・医療に携わる私たちにとって大切なことを考える機会となりました。

この3つのお話に共通するキーワードはみやじ議員も繰り返し口にされていた「多様性」です。私自身の勉強不足もありますが、「多様性」といえば人種や言語、文化、民族といった、どちらかといえば表面からわかるものが先行して思い浮かぶのですが、みやじ議員のお話を聴き、考え方、観点、ジェンダーなどといった内面的なものも含め理解することが重要であることを感じました。多様性は、新しい価値観や経験、知識がミックスされ、様々な視点を得ることができ、私たちの人生を更に豊かにしてくれると思います。無意識に自分の中に自分自身の基準を作ってしまったと気付かせていただいたお話しでした。

その後、参加者からの事前質問（医療福祉、児童発達支援、学校教育、ヤングケアラー、AIについて）などに対しても、みやじ議員自身の考えに議員としての視点を加え、理解しやすくお答えしていただきました。

鹿児島県理学療法士連盟でみやじ議員との意見交換会を開催するのは今日が3回目になります。毎回、私たちが普段では聞くことのできないお話や、自分たちの職種だけでは気づかないような視点や考え方を示していただいております。是非、まだまだたくさんの会員にも参加していただきたいと思います。



衆議院議員 みやじ拓馬氏との意見交換会

## 覗いてみたい！あの人の理学療法士的思考

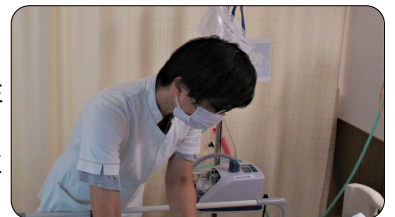
社会医療法人 天陽会 中央病院リハビリテーション部 副部長 日高みふ先生



私の職場は、219床の急性期病院です。PT・OT・ST合わせて16名、法人としては42名のスタッフが在籍しております。他の病院に比べリハビリスタッフが少ないと言われる。しかし、民間の病院に於いては、各診療科の医師の配置・得意とする疾患・取り入れる治療法の変化により「リハビリテーション算定対象疾患数」が変動します。その時の施設経営の中で「救急から在宅へ」他の職種・施設と連携しながら、最も信頼性・必要性のあるリハビリを提供しています。保険制度・医療技術が常に変化している中、理学療法士として地位を確立していく為には、変化に対応できる知識・技量・資質を持った人材が必要です。

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。」

連盟の活動を学び始めたばかりの私ですが、「柔軟に変化に対応できる方々(老いも若きも)と共に成長していく」これが私の理学療法的思考です。



連盟会員募集  
今こそ団結を！

連盟会員は随時募集しております。今回の内容をご覧頂いても分かりますように非常に内容の濃い活動を行っております。

いよいよ本年は衆議院議員選挙、そして来年は参議院議員選挙が行われます。理学療法士が理学療法士としてあるためには政治の力も必要です。みやじ拓馬氏はおっしゃいました。「政治とは正しいもの同士の戦い」だと。だからこそ、声を一緒に上げましょう。

数は力なり。そして想いも力なり。皆様の入会をお待ちしております。

